

どろんどろんと コミュニケーション



「時代の変化」

Vol.124

世の中はどんどん変化して
いきます。その変化を今、一
番感じているのはイギリスの
国民ではないでしょうか。EU
には多くのヨーロッパの
国々が参加して、これからア
メリカにも匹敵する大きな勢
力になるであろうと言われた
のにEU離脱に向けて進ん
でいくわけです。イギリス国
民は時代の変化を感じている
ことでしょうか。イギリスでは
残留か離脱かを決定するため
に国民投票を行いました。国
民全員から意見を聞いて決
めようというのですから一見、
民主主義の見本のように思え
ますがその中に問題が潜んで
います。たとえば離脱すれば
様々な影響が出てきますが、
全体を見ないで外国からの移
民の阻止だけを期待して離脱
に賛成した人達もたくさん

るわけですね。離脱に賛成した
ものの、少しはやまったと思
う人もいます。

アジアでも時代の変化は起
きています。中国の南シナ海
への進出はすさまじいと思
います。先祖代々、目の前の海
で漁をして暮らしてきたフ
ィリピンなどの人々は遠く離れ
た国から軍艦がやってきて、
怖くて沖に出られないとい
うのですから、おきのどくな話
です。列強国から散々いじめ
られてきた国が、国力が付く
にしたがって変化しているよ
うです。昔は海はみんなのも
のであったと思います。誰が
航海をしようとする自由であり、
海にさえぎられて国土の端
に至るといのが常識であっ
たと思います。今後は、太平
洋や大西洋も「何千年か前に
我々の祖先が発見したから

が国の領土だ」と主張する国
が現れないとも限りません。
さて最大の火薬庫と言われ
て久しい中東です。十字軍の
ころはキリスト教徒とイスラ
ム教徒の戦いでした。次にイ
スラエルとアラブの間の戦
い。そして今ではISなどと
いう恐ろしいグループが出て
きて、誰が敵で誰が味方かわ
からないような有様です。こ
こそ時代の変化が激しいと
言わざるを得ません。この地
域の争いのせいで、難民が世
界中にひろがり、テロも拡散
しています。それにしても日
本は宗教的な問題が少なく
いいですね。正月は神道、葬
式は仏教、クリスマスや結
婚式はキリスト教とおおらか
です。

考えてみれば、変化しない
のは争いや戦争のある世界だ
けかもしれません。私たちは
戦後の時代を生きてきたよう
に思っています。歴史的に
見れば、もしかしたら今は戦
前だったと言われる可能性も
あります。もちろんそんなこ
とにはなつてほしくないです
が、これだけ争いが多いと、
完全に平和な時代は望めそう
ありません。

核兵器なき世界



Vol.151

い」と答えました。彼は、原爆投下が正し
たかどうかの議論ではなく、
当時、戦争の両側にいた人々
の話に耳を傾け、何が起きた
のかを理解し、「二度と核兵器
を使わないこと」だと感じ、
現在も日本やアメリカで被爆
者の声を聞き、多くの人に伝
える活動を行っています。

今から4年前、広島・長崎
の平和式典に出席したアメリ
カ人がいます。その人は第33
代アメリカ大統領ハリー・
S・トルーマン大統領（広
島・長崎への原子爆弾の投下
命令を下した大統領）の孫に
あたる、クリフトン・トル
ーマン・ダニエル氏です。

彼が、広島と長崎を訪れた
際「謝罪に来たのか？」と聞
かれたそうです。その時、彼
に広島訪問を打診した、佐々
木雅弘さん（「原爆の子」の
像のモデルとなった佐々木禎
子さんの兄）が「原爆投下
について我々が謝罪を求めた
ら、アメリカは日本に真珠湾
攻撃の謝罪を求めることに
なる。その先に何があります
か。責任を問うことは非難合
戦につながり生産的ではな

りか大統領バラク・オバマ氏
が現職大統領として初めて被
爆地、広島を訪問し、広島、
長崎をはじめ第二次世界大戦
のすべての犠牲者に哀悼の意
を示しました。「世界はこの
広島によって一変しました。
しかし今日、広島の子どもた
ちは平和な日々を生きていま
す。なんと貴重な事でしょう
か。この生活は守る価値があ
ります。それをすべての子ど
もたちに広げていく必要があ
ります。この未来こそ私たち
が選択する未来です。未来に
おいて広島と長崎は、核戦争
の夜明けではなく、私たちの
道義的な自覚の地として、
知られることでしょうか」と演
説しました。参列した被爆者
のかたと言葉を交わし「核兵
器なき世界」を追求する重要
性を訴えました。